

つづき はるかぜ ふ
都筑に春風吹けば

加羅古呂庵 一泉

2021.5.9 作曲

つづき はるかぜ ふ
都筑に春風吹けば

横浜市都筑区の春の情景を、酒泉^{さかいずみ}彰^{あきら}氏が詩にしてくださいました。都筑の地は、港北ニュータウンを中心として、新しい街のイメージがありますが、里山が多く残され、四季折々に自然の変化を楽しむことができます。酒泉氏の詩は、実際の自然の姿以上にその美しさを捉え、さまざまな花を織り込み、光と色と香りに満ち満ちた理想郷を描き出しています。

青空が 鏡の水に 映る頃
茜さす 日は春色に 里山の 若草は萌え 水ほとぼしる
赤白の 梅艶やかに 香り立ち
見上げれば 山青々と 日の光 燦々と野に 降りそそぐ
白赤の 錦織りなす ぼけかをり
里山の 小路をゆかば 雪柳 白き花々 ほほ笑みかける
春風が 都筑に花を 伝えけり

早春の 陽に冴えわたる 椿道
東風受けて 春日に光る 紫雲英の田 赤紫の 雲棚引きて
月下咲く 紅の花 馥郁と
あしひきの 山田の富士を 眺むれば 遥かに匂ふ 桜ぞ咲けり
幼き日 見たふるさとの 花の園
野辺ゆかば こぞ咲けし桃 めぐり会い 愛しきふるさと 懐かしむ
春風が 都筑に花を 伝えけり ©2021 酒泉 彰

歌については、男声と女声による2部になっています。各パート1人でもいいですし、複数の合唱でもいいでしょう。楽器は、箏×2、十七絃、尺八ですが、どれか1パートは歌の旋律をなぞるようにしています。伴奏に終始するのではなく、歌と歌の間に楽器だけの演奏部分を設けました。なお、歌は単純な繰り返しではなく、詞に合わせて旋律を少し変えています。

(注) 縦譜では、歌を箏(花雲調子)で記しています。男声の最低音は、特殊な記載になっていますので、ご注意ください。